

たか、し



<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

子供と一緒に過ごす時間

校長 本橋 忠旗

新学期が始まり1か月が過ぎようとしています。不安そうだった1年生の表情も徐々に頼もしくなってきました。4月の終わりを迎え、これまでの緊張も少し和らぐ時期ではないかと思えます。

さて、連休を前に以前観たことのある映画を思い出しました。その映画は、2013年に公開された是枝裕和監督の「そして父になる」という作品です。第66回カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞し、当時は随分と話題になりました。

映画の概要は次の様です。福山雅治さんが演ずる「野々宮良多」は、優秀な学歴や仕事等を自分の力で勝ち取ってきた人でした。その良多は、6年間育ててきた息子の慶多の優しすぎる性格に不満をもっていました。そんなある日、良多は慶多が病院内で他人の子供と取り違えられていたことを知り、取り違えの相手であるリリー・フランキーさんが演じる「斎木雄大」の家族と出会います。物語は、この二つの家族（両親）を中心に展開していきます。映画では、「野々宮良多」と「斎木雄大」という父親の姿が対照的に描かれています。

- ・ 子供が遊ぶ姿を「遠巻きにコーヒーを飲みながら見守る良多」と「遊具で子供と一緒に遊ぶ雄大」
- ・ 壊れたおもちゃがあると「新しいものを買ってもらいなさいという良多」と「そのおもちゃを直してくれる雄大」
- ・ 仕事に対して「休日も出勤をして事業を成功させようとする良多」と「‘明日できる事は、今日やらないんだ’という雄大」
- ・ 子供と一緒にいる時間が取れないことについて「‘私にしかできない(会社での)仕事があるんです’という良多」と「‘お風呂も一緒に入らないんだって？『子どもは時間』だよ（一緒にいる時間が大切だよ）’。父親だって、取り換えのきかない仕事だろうという雄大」

二人の子供たちは、次第に良多よりも雄大に親しみをもち始めます。そして映画の最後には、完璧で負け知らずの良多が息子の慶多に「ごめんな。できそこないのパパだったんだ。」と自分の足らなかったことを認め、謝る場面があります。

対照的な2人の父親の姿ですが、どちらがいい悪いという見方ではなく、「子供から見た時、どちらが楽しいだろう、どちらの父親からの学びが多いだろう。」と考えさせられたものでした。そして「今の自分は、どちらの父親に似ているのか・・・」そんな事にも考えが及んだのを覚えています。

毎日の生活は、刻々と過ぎていきます。そして迎える週末。何気なく過ごしてしまうと、同じような事が繰り返され1日が終わります。しかし、実際には今日という日は戻らず、日々のできごとともに思い出に変わって行ってしまいます。

今振り返れば、子供と過ごす小学校の6年間はあっという間でした。この間に子供の成長にどう関わり、どのような時間を過ごしていこうとするのか、どこかで一度考え、実行しておくことが大事なのかもしれません。今は余裕がなくても、後には、いい思い出になることがたくさんあるはずです。

子供は、親の姿を本当によく見えています。そして、一番身近な大人のモデルとして学んでいきます。その姿は、何十年たっても子供の脳裏に焼き付いているはずです。長い人生の中のほんの一瞬、「子供と一緒に楽しむ時間」そんな親期を私たち自身が楽しみたいものです。いい連休をお過ごしください。